

第 15 期（令和 8 年）通常総会資料

第 1 号議案 令和 7 年度事業報告

1. 1. 事業報告の概要

令和 7 年度も概ね、計画どおり実施できた。日本語学習支援においては、教室の学習者は年間を通じて 100 名を超えている。個人レッスンの希望も多く、ボランティア不足が課題でもある。その他、外国人住民への生活支援では、地震体験、行政書士による相談会、年金事務所員による年金の話なども行った。

地域連携では、近隣のケアプラザ、コミュニティハウス、中学校に講師の派遣を行った。ラウンジの周知として、韓国料理教室や、折り紙、中国結び教室、外交官の講演会も開催できた。ボランティア向けで、在留資格の基礎知識、語学ボランティア懇親会なども開催した。

1. 1. 1 委託事業

1) 窓口業務：市民通訳ボランティアの依頼は、120 件で横ばい状態だが、ボランティア不足は常にある。母語による学習支援、初期適応も外国籍児童の増加に伴い依頼が増えたが、こちらもボランティア不足。今年是在留資格についてなど窓口研修を 3 回実施できた。語学ボランティア懇親会を開催し新規ボランティア獲得とボランティア相互の意見交換ができた。外国人からの病院紹介や、役所の提出書類の記入補助の相談などもあり的確に対応できた。

2) 情報広報部会：概ね計画通りできた。

業務用 PC（全 6 台）の Windows11 への移行を終了した。

会員及び関係者対象のメーリングリストの定期的アップデートを月 2 回実施している。

ラウンジニュースは発行回数を維持、記事レイアウト工夫、および HP への誘導を開始しページ数減少を補っている。発送の一部である区役所持込は理事会参加者の協力を得るようになった。

ホームページは、令和 7 年度投稿記事数の約 80%が各部会投稿、令和 6 年度の 15%程度から大幅に増加し、各部会の HP 担当者が自ら投稿できる状態となっている。

3) 日本語部会：概ね計画通りできた。

- ・学習者は 123 名でスタート。日本語ボランティア入門講座は希望者が多く、24 名が受講。
- ・明治学院大学のゼミの学生との交流も前年に引き続き行った。
- ・外国人向けの防災啓発として、防災講座や防災センター見学などを行った。
- ・「ゼロビギナーへの指導の基本」をテーマにボランティア研修講座を行い好評だった。
- ・理事会に「ボランティア活動費を現行の 200 円から 400 円に値上げする」ことを柱とする見直し案を提出した。

4) 日本語を母語としない小中学生の学習支援教室（はっば）

ボランティアの入れ替わりはあったが、生徒の数を減らすことなく対応できた。ウェイティングの生徒は少なくなっている。避難訓練、ミーティング、ギャザリングを行うことができた。また、ゼロベースの入会希望に、迅速に対応ができた。

5) 「港南国際交流ラウンジ祭り」は、ひまわりの郷で開催。「日本語で話そう」は小学4年生の参加があった。全員がスライドを使いながら、自分の国の紹介や日本での暮らしなどのスピーチで好評だった。ステージは新規で4団体が参加で、多種の踊り、演奏、歌で盛況だった。ホワイエでは、フリーマーケットと行政書士による在留資格相談会を開催した。「国際交流のひろば」は、来場者数は横ばい、各部会ごとのパネル掲示や、いろいろな言語で自分の名前を書いてみるブースを設けたが、新しいボランティア獲得にあまり繋がらなかった。

1.1.2 自主事業

1) 事業企画部会：概ね計画通りできた。

全体的には計画を上回った。「ネイティブに学ぶ外国語教室」において全10教室を継続して開催した。「Bogo カフェ」として外国語教室学習者を講師に「折り紙のクリスマス」開催した。案内HPを見た大学から依頼があり交流の場を広げることができた。講演会を2回実施した。1つはボランティアを、他の1つは元外交官を演者に理事会と共催の形も試みた。外国人スタッフや外国語教室の受講者による料理やカルチャー教室を開催した。

2) 情報広報部会：概ね計画通りできた。

- ・PC教室の募集に「マンツーマン」を強調した結果、前年度に比べ1.8倍の受講者増となった。
- ・PC教室用PCのWindows11への本年度移行は計画通り終了。
- ・国際理解講座（「英語で料理」「英語でダンス」「にほんごの敬語」）は参加人数も確保できラウンジを知ってもらえる良い機会であった。
- ・やさしい英会話の申込は受講者希望により来館に電話を追加し、開校日集金が可能となった。
- ・スマホサロンでは機種によりアプリが異なる、外国人参加者1名など課題が抽出された。

3) 理事会扱い

①こうなん子どもゆめワールド「世界の屋台村」は、12 団体が出店。今年は好天に恵まれ、どのブースも賑わった。一日ボランティアを募集し若い世代にもご協力いただいた。

②日本語会話クラブ

前半の活動は、定期的に参加する学習者が4～5人いたが、後半になり、仕事の都合や体調が良くなり、来られなくなった人が多かったが、南高校のヨーロッパ出身の留学生の参加があり、日本とヨーロッパの文化の違いを学ぶことができた。

計画より参加者が少なかつたために、予算を大幅に下回った。次年度は研修室を利用し、ウィリング賃貸料の支出をなくしたい。

参加者は日本での生活経験、母国での生活経験などを話すときは、その人のストーリーを表現する言葉を使用し、話すことができる。それはテキストにはない言葉であり、その人の言葉である。互いに知り合うことで安心して互いのコミュニケーションが円滑に進んでいった。会話クラブの位置づけは、日本語学習の場である。

③日本語能力試験受験準備のための学習教室（JLPT）

- ・計画通りできた。
- ・ボランティアの人数が変わらない一方で、学習者の人数は増加傾向にある。

添付資料

資料 1—1 令和 7 年度事業実績（委託）

資料 1—2 令和 7 年度事業実績（自主）

第2号議案 令和7年度決算報告

2.1 決算報告の概要

収益面では、例年の如く多くの自主事業が予算未達であったが、外国語教室、JLPT、国際理解講座などが予算を達成したため、収益は予算比+約9万円、23,507,329円となった。委託金は18,169,560円で、この内、約20万円が在住外国人への防災啓発活動のための予算であった。

費用面では、ラウンジニュースが配布先ニーズの精査結果をもとに印刷数を減らして費用を削減された他、多くの事業費用が予算内で抑えられた。その一方、研修室の椅子等の買い替え等、一昨年より懸案となっていたものの購入を進めた。その結果、全体の費用は予算比+1,229円の23,002,131円となった。

上記の結果、当期の収支は+505,198円の黒字となった。

2.2 添付資料

資料2 令和7年度決算報告

決算報告は事業ごとの収支がわかるようにまとめた。なお委託事業には（委託）と記載して識別した。さらに、それらの数値のもととなる活動計算書、貸借対照表、財産目録、そして監査報告をまとめた。

第3号議案 令和8年度事業計画

3.1. 令和8年度事業計画の概要

前年度に見直された市の国際交流ラウンジガイドラインに従い、一部の自主事業運営方法を変えながら外国人住民等と地域社会をつなぐ拠点の役割を果たす。この地域に合ったニーズ・特性をよく踏まえながら、外国人が地域活動に主体的に参加できる環境作りに取り組み、生活ルールや防災情報などの提供・啓発イベント開催に努める。

日本語学習のサポート、国際交流のイベント開催、広報活動は各部会と理事会、窓口部が協力しながら行う。ニーズが高い外国につながる子どもの学習支援教室にも力をいれる。

地域連携では、自治会や外国人コミュニティ、近隣の商店などともつながりたい。

また、紙媒体の削減、個人情報の取扱い・管理の徹底にも努める。

ボランティア育成に関しては企画立案までできる人材育成を諮るとともに、ボランティア初心者も容易に参加できる活動なども計画したい。

3.1.1 委託事業

1) 窓口部

- ・語学ボランティア懇親会、窓口スタッフのスキルアップ研修会を続けて行う。
- ・ラウンジの立地条件の良さを生かし、横浜の各地域からの来館者を増やす。
- ・地域に在住している外国人との交流を図る方法を検討する。

- ・種々の申し込みフォーム、記入書類を現状に合ったものに見直す。
- ・情報共有の伝達や記録方法について研修を検討する。

2) 日本語部会

- ・学習者数は教室の収容能力もあり、125名前後を見込みたい。
- ・日本語ボランティア入門・研修講座、日本語で話そうは、令和8年度も実施したい。
- ・明治学院大学など大学生との交流は、引き続き行っていきたい。
- ・各教室で行うギャザリングは、学習者同士、教室ボランティアとの交流を図る場として意義があり、継続して実施していきたい。
- ・ラウンジ活動について、教室ボランティアが集い、情報の共有や意見交換する場を設けたい。
- ・学習者数については曜日で開きがあり、研修室のMaxを超えないように学習者数が17～20名くらいで、7教室にほぼ均等に入ってくれるのが最良と考えている。
- ・活動費の値上げを実現したい。

3) 日本語を母語としない小中学生の学習支援教室（はっば）

- ・事業としては、例年並みを計画している。
- ・数値目標：参加者数 13名 開催回数：28回
- ・新しい目標 定期的に活動可能な新規ボランティアの勧誘
- ・新規事業 ギャザリング等での地域との連携ができるように試みたい
- ・参考書・教材の購入を進め、活動に役立てる。

4) 情報広報部会

- ・ラウンジニュースの発行回数、ページ数の維持、記事の充実と合わせてデジタル化を進める。
- ・ホームページの内容の充実を図る。研修も継続する。
- ・情報通信事業者、後継者育成。窓口部との連携。データのバックアップなど災害時の対応強化。

5) 理事会実施事項

- ・「こうなん子どもゆめワールド」「港南ラウンジ祭り」「国際交流のひろば」の開催
- ・行政書士の無料相談会
- ・ボランティアの育成
- ・行政、周辺の施設、自治会等地域団体と連携し、より充実し円滑な法人運営を進める。

3.1.2 自主事業

1) 事業企画部会

市の国際交流ラウンジのガイドライン変更に伴い、大幅に活動を見直す。

- ・「ネイティブに学ぶ外国語教室」は開催しない。
- ・日本伝統文化を外国人と一緒に楽しむイベントを1回実施する。
- ・外国語スタッフや外国語教室の講師によるその国の歴史・食文化を地域の人と共に一緒に楽しむイベントを1回企画する。
- ・外国人学習者と会員の親睦会を日本語部会と協力して、年2回の開催の継続を模索する。

2) 情報広報部会

- ・PC講座、やさしい英会話は継続する。PC講座用PC更新は計画的に行う。
- ・スマホサロン開催は検討を進める。

3) 日本語会話クラブ

- ・参加者数1回8名 開催回数 8回
- ・来年度の会話クラブは毎月ではなく、日本語教室が休みの時期に開催する。
「夏休み会話クラブ」・「冬休み会話クラブ」・「春休み会話クラブ」とする。
場所は研修室を使う。
- ・冬休みは交流イベントとして開催をしたい

4) 日本語能力試験受験準備のための学習教室 (JLPT)

- ・ボランティア5~6名。学習者 各期8~15名。活動回数 年28回。
- ・少人数グループで一人一人に合わせた手厚いサポート
- ・広報は、これまでどおり、ラウンジニュースとホームページ。
- ・ボランティアを1~2名増やす。
- ・仕事のための日本語に関する資料、参考書をそろえ、求職活動のサポート。

5) 多言語理解講座

- ・「韓国語で話そう」と「ビバ・エスペランサ」を開始する。
- ・国際交流ラウンジガイドラインに則った運用とする。

3.2 添付資料

資料3-1 令和8年度事業計画案 (委託)

資料3-2 令和8年度事業計画案 (自主)

第4号議案 令和8年度予算案

予算案の概要

市の国際交流ラウンジのガイドライン見直しに伴い、研修室利用の事業はこれまでよりも非営利とすることを徹底するなど、運営方針を大きく変えることとなった。そのため自主事業については研修室利用のものと、他施設利用のものに分けて予算を立てることとなった。委託金はスタッフ給与の基準となる神奈川県最低賃金の期中での増額を鑑み、令和7年度より約47万円増えた。しかし、自主事業の収益は、上記運営方針の変更の結果、令和7年度に比べて約380万円減となる約149万円となる。

委託事業と自主事業の収益比が大きく変わったため、それに応じて人件費、事務消耗品費等の委託分と自主分の按分比を見直した。そして自主事業費用全般を見直した結果、自主事業費用は約140万円となった。なお、委託事業予算には約10万円の予備費を設けた。これらの結果、全体の収支は約9万円の黒字を見込む。

添付資料

資料4 令和8年度活動予算案

活動計算書案においては、委託事業は〔委託〕、自主事業は〔自主〕と記載して識別した。また、委託・自主両事業に関わる費用には、委託事業と自主事業の金額を各々記載した。

以上